

富士見お散歩マップ

東久保・南畑編



難波田城公園



文献によると1772年に地名が「難波田」から「南畑」になりました。



難波田城(なんばたじょう)は、中世に富士見市を本拠に活躍した難波田氏の城館跡で、昭和36年、埼玉県旧跡に指定された歴史公園です。

【難波田城資料館・古民家】
 休館日：月曜日(祝日を除く)、祝日直後の平日、年末年始(12月29日～1月3日)
 開館時間：午前9時～午後5時
 【難波田城公園】
 休園日：なし
 開園時間 午前9時～午後6時(4月～9月)、午前9時～午後5時(10月～3月)



難波田城公園・資料館では、地元の方などに講師になっていただき、様々な昔体験をすることができる「ふるさと体験」や、土・日・祝日(年末年始を除く)に開催している子どもも大人も手軽に楽しめる体験イベント「ちよこつと体験」を開催しています。ほかに、古民家に泊まって、手打ちうどん作りや五右衛門風呂などの暮らしを体験する「古民家宿泊体験」、本物のよろいを試着する「よろいを着てみよう」など、たくさんの体験企画・イベントを実施しています。 ※参加方法など詳しくは施設(電話番号 049-253-4664)までお問い合わせください。

イベント



難波田城公園イメージキャラクター



菜の花フェスタ(4月上旬)

東久保地域の田んぼ一面に菜の花が広がります。期間限定で菜の花鑑みや、大型熱気球係留フライトの体験もできます。また、米・農産物などの販売や模擬店も多数出店しています。 ※熱気球のフライトは、強風などの気象条件によりできない場合があります。



なんばた青空市場(11月上旬)

収穫が終わった南畑幼稚園近くの田んぼを会場に、農産物の直売や模擬店、お米のつかみ取りなど、生産者と消費者の「ふれあい」をテーマにしたイベントです。



菜の花まつり(3月下旬)

難波田城公園東側の南畑直売センター周辺で地元野菜の販売などを行います。3月下旬から4月上旬には菜の花鑑み体験ができます。



難波田城公園まつり(6月上旬)

鉄砲隊による火縄銃演武や武者行列、だんごやまんじゅうなどの模擬店、はたおりやあそびなどの体験コーナーなど、戦国時代タイムスリップした気分が味わえるお祭です。

南畑でのこだわり



「技能と文化」を伝える

富士見市では、昭和35年に「ホウキモロコシ」の作付面積が県内1位となり、当時は産数ほうろぎが特産品として作られていた。生活の変化により減少してきたが、自然素材で豊やフローリングにも優しいと話すのは、技能と文化の継承を図る「いきものがかり」の皆さん。難波田城資料館で活動しており、春から秋にかけて難波田城公園で「ホウキモロコシ」も育てています。



みんな生きている

「笑顔で楽しい農業をしたい。」そう語るのは難波田城公園周辺で農業を営む柳下春良さん。魚や昆虫などと共存できる農業を目指し、「おいしい安全なお米を育てるには水が大事。子どもたちに環境問題についても考えてもらいたい。」と、目の前に広がる田んぼが教室に、どこか懐かしい景色が広がっています。

富士見市アクセスガイド

鉄道のアクセス

東武東上線と東急東横線、横浜高尾線のみらい線の相互直通運転(東京メトロ副都心線経由)がされており、池袋から約30分、横浜から約70分、大宮から約30分のアクセスが可能です。



富士見市をもっと楽しめる
 観光アプリ「ココシル☆ひびき」もご利用ください。
 web版はこちら
<http://home.fujimi.kokosil.net/ja/>

発行：富士見市地域活性化研究会(ふじみならび) この情報は平成30年3月時点の情報です。

文化財



前耕地観音堂 ①
 1672年、三面二臂(3つの顔と2本の腕)の馬頭観世音が前耕地観音堂に建立され、前耕地の北向き観音様と呼ばれています。



下南畑水川神社 ①
 祭神は須佐之男命で、創立年代は不明ですが、1444年に武蔵国一宮水川神社(大宮)を分祀し勧請したと伝えられています。



たそがれ地蔵 ③
 1728年建立の延命地蔵が安置。当時、川越方面と江戸の通り道としてどちらから来ても夕暮れになることが名前の由来です。



天神社 ②
 通称「城家」と呼ばれる所にあり、難波田氏の守護神とし、1394年～1429年には城の鬼門除けとして建立されていたといわれます。



エンマ堂 ①
 堂宇が1921年に火災にあい、薬師の堂宇を譲り受けました。昔は御斎場の集食所や角力・万作の練習場でもあったといわれています。



阿蘇神社 ①
 祭神は阿蘇比女之命で、1504年建立です。九州の阿蘇神社がルーツで関東では羽村市とここにしかない貴重な神社です。



南畑村影石碑 ③
 日露戦争戦死者8名と戦歴、日清戦争従軍者2名、日清・日露両戦争従軍者14名などの名が刻まれている。1918年建立。



本丸土塁 ②
 平地の南畑において、難波田城の本丸付近につくられ、物見台として使われていたと推測されています。



新河岸川放水路の下端碑 ⑥
 新河岸川放水路とびん沼川の合流地点である、三本木橋左岸に、「新河岸川放水路 下流端」の碑が設置されています。



天神社の祠 ④
 昔は、杉の木の中に祠が建っていましたが水田となり、1986年に新河岸川改修が行われ、三本木橋の土手に祀られるようになりました。



蛭沼陸田開拓碑 ②
 1950年代の陸田化により稲と麦の二毛作が可能に、その後、昭和40年代の減反政策により、びん沼自然公園に生まれ変わりました。



金蔵院 ③
 1610年に建立され、江戸時代には寺小屋、1875年には南畑小学校の前身である「徳明学校」が開かれました。



あたご様 ⑥
 戦勝をもたすとして中世以降、武士の信仰を得ていました。火除け神や農業神でもあり、村内でも広く信仰されました。



南畑八幡神社 ④
 拝殿裏の本殿は、1942年に県立川越中(現川越高校)内の奉安殿が移築され、市指定文化財の獅子舞、剣道などが奉納されています。



南畑排水機場 ④
 1987年に完成し、新河岸川の増水時の水を新河岸川放水路・びん沼調節池を経て、機場のポンプで荒川に排水しています。



水越門礎 ⑩⑪
 1905年築造。レンガ造りの礎門(管)は、明治期の埼玉県近代化遺産(土木)として代表的なものです。(市指定文化財)



馬の避難所 ⑩
 1804年～1818年頃に盛り土をして稲荷を記ったとされています。1910年の大洪水の時は、40頭がこの避難所といわれています。



砂川樋管 ⑨
 砂川堰への逆流を防ぐ為、1927年築造。大正～昭和初期の新河岸川改修のコンクリート製構造物で、現存するものは砂川樋管だけです。



蛇木河岸跡 ⑨
 1706年頃には成立したと推測。主としてふじみ野市、三芳町などの跡を扱う。蛇木にとくろを巻いていたことが由来といわれています。



旧新河岸川開拓記念碑 ⑦
 河川改修によって荒川となった敷地約155千㎡を農地に変える事業の完成を記念して、1980年、旧川のほとりに建立されました。



大山阿夫利神社 ②
 中組講の家の跡取りが交替で小ローンを灯してお祀りしています。雨乞いの神で夏に講社連中が大山詣を行っています。



車地藏 ⑩
 1696年建立。木製の車(輪廻車・念仏車)が付いており、家内安全や五穀豊饒を祈りながら車を回せば願いが叶うといわれています。



長谷寺 ⑩
 御本尊の聖観世音菩薩は、丈7寸(約22cm)ほどの座像で、行基の作と伝えられています。境内には流地蔵尊もあります。



山形樋管 ⑩
 1904年築造。新河岸川に面した吐口のみ現存し、明治中頃から大正時代にかけて数多く造られた近代化遺産です。(市指定文化財)



興禅寺 ①
 1694年に川越より引水し、南畑用水を完成した小山作兵衛の墓や、1868年に鐘楼権現で焼失された13人の供養碑などがあります。



上南畑神社 ⑨
 祭神は天児屋根命(あまのこやねのみこと)で、1549年の大洪水のときに、ご神体が流れていたといわれています。



総合揚水機場 ⑦
 南畑地域の農業用水確保のため、新河岸川・びん沼川・地下水を混合し、揚水機場で混合し、水田に配水しています。



慈光院跡の大型板碑 ⑥
 市内で最古の板碑は、慈光寺跡(管)は、明治期の埼玉県近代化遺産(土木)として代表的なものです。(市指定文化財)



南畑排水樋管付近の荒川土手 ⑤
 土手からの遠景は富士山、浅間山、赤城山、筑波山などを眺めることができ、季節ごとの景観は一見の価値があります。



いぼとり地蔵 ⑩
 1730年建立。手足の「いぼ」を取り去ってくれるお地蔵さまとして「いぼとり地蔵」とも呼ばれるようになりました。



大澤家長屋門 ⑩
 大久保村の名主をつめた家柄で、表門はその象徴です。主屋は難波田城公園に移築されていますが個人宅です。長門の中には入れません。



伊佐島河岸跡の水神碑 ⑧
 1839年以前の開設と考えられ、主に三芳町方面が多かったといえます。東上線が開通して2～4年後に廃棄しました。